

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園：湿地の観察会（2013/2/12 実施）～

2013/2/26 作成、参加人数：6名、文責/編集：相澤*、写真：M.K.

*この観察日記は参加者からいただいた感想を基に作成しております。

◇野鳥

冬の曇り空の冷えびえとした空気でしたが、鳥が多く観察出来ました。又、木々の芽やつぼみがふくらんできて、やはり春は近いことを思わせてくれました。

去年の2月、根木内歴史公園の観察会では初めてカシラダカが見られたのですが、今年も律儀に2月に着てくれました。

カシラダカ



しかし、今回の一番人気はなんと言ってもコガモでした。

氷のはった池にコガモがたくさん来ていました。氷の上を歩いたりしてすっかりくつろいだ様子でした。近くに人がいても飛んでいかないコガモたち。安全な場所とわかっているのでしょうか。しばらくするとカルガモもやってきました。ここはわれらのなわばりだ～とばかり騒々しい音をたてて着水しましたが、コガモは別に驚く様子はありませんでした。



羽を広げた時、美しい緑をかくしているのが解りました。

今回見られた野鳥

ツグミ、アオジ、ムクドリ、シメ、コサギ、キジバト、カシラダカ、ウグイス、ジョウビタキ、ヒヨドリ、コガモ、カルガモ、ハシブトガラス、ホオジロ?

←薄氷の上を歩くコガモ

◇植物

コブシ

まだまだ春は遠く感じられる寒い日でした。コブシの花のつぼみは、毛皮のコートをしっかりまとい着ぶくれすることなくスマートなままでした。一つ、つぼみを手にとって、中心にあるスジどりに二つに割ってみました。中にはかたく巻いていた花びらが緩やかにまかれていて、ほのかにニッケイの葉のような良い香りがしてきました。つぼみにぴったりと寄り添っている、もう一つの毛皮のコートを着ているのは、中には硬いひらべったい濃い緑色のものが有りました。開花時にモクレンとの違いでよく言われる、花の下にある若葉のようです。チョット離れた下に、もう一つの毛皮のコートを着たのが有ります。これも同じでした。葉芽でなぜ毛皮のコートを着る必要があるのか、疑問がわきました。さらにその下にある葉痕の上に側芽があり、これは毛皮のコートは着ていません。どういった葉の展開になるのかまた楽しみができました。



若葉と一緒に開花するコブシ (写真提供: 佐々木駿介氏)



ニワトコ

広場のニワトコ、

すくっと天に向かって枝を伸ばしています。

その枝に春の芽がたくさんならんでしました。

赤い芽に青いツブツブがついているのをよくみたら、

アブラムシがびっしりでした。

次回の根木内歴史公園の湿地の観察会は**3月12日(火)**に行います(小雨決行)。**10:00**に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内でお弁当を食べます。去年の3月はフキノトウが見られたり、ニワトコの新芽が見られたりしました。春の訪れが感じられる暖かい観察会になると良いですね。

お問い合わせ (千葉大・相澤)

E-mail : akihitoaizawa@gmail.com